

新年号

酪農

とちぎ



- 1 ページ 表紙
- 2 ページ 組合長挨拶
- 3 ページ 栃木県知事挨拶
- 4 ページ 青年部部长挨拶、女性会会长挨拶
- 5～6 ページ 東西南北（各支所）
- 7 ページ 部課だより（生乳受託課）
- 8 ページ 部課だより（業務部）、
理事会だより、お知らせ、市場成績

HAPPY
NEW
YEAR
2021

MILK
JAPAN
牛乳が日本の
元気にする。
www.milk-japan.net



MILK JAPAN



新年の挨拶

酪農とちぎ農業協同組合

代表理事組合長 白井 勉



組合員ならびにご家族の皆様方におかれましては、輝かしい新春を迎えられたことと謹んでお慶び申し上げます。

また、干支が「丑」の本年は当組合にとって平成13年8月1日の創立以来、20周年の節目を迎える特別な年であり、今日に至るまでご尽力ご厚情を賜りました関係各位の皆様に対しまして心より感謝を申し上げます。

さて、国内において新型コロナウイルスによる第3波とも言われる感染拡大が進行する中、酪農乳業への影響がどのような形で現れてくるのか、今後とも予断を許さない状況が続いていくと思われまます。

我々を取り巻く酪農情勢を振り返ってみますと、平成18・19年度と2年連続の減産型計画生産や急激な飼料高騰等による経営危機、平成23年3月に発生した東日本大震災の復旧対応など、幾多の試練に耐えながら過酷な状況に中であつても、明るい未来を見据え牛歩のごとく邁進してまいりました。

昨年、ノーベル平和賞を受賞された国連機関の「世界食糧計画」によると、現在6億9000万人もの人々が飢えに瀕しており、世界の食糧動向を広く大きく捉えてみると、気候変動の影響や輸出国の事情等により世界で流通できる食糧に余裕は無いと思われまます。

そのような見通しの中、牛乳乳製品の国内需給を安定させていく我々の使命は普遍的・献身的なものであり、様々な難局に直面しても酪農乳業一体となって苦境を乗り越え、国民の健康と命をつないでいく責任を果たしていきたいと考えまます。

コロナ感染防止のため地域の集会や研修会等が中止となり、仲間との連帯感が持てず、ストレスがたまりがちの毎日

ではありますが、安心して社会経済活動ができる近い将来を共に念願し、皆様方には引き続き予防対策の徹底をお願いいたします。組合も、業務の継続に支障の無いよう万全を尽くして対応してまいります。

結びに、組合は第6期中期構想（令和3年度～5年度）を策定し、多様な酪農の成長を支え持続可能な酪農を目指し、事業の充実強化と業務体制の効率化を進めてまいります。

今後とも組合運営に対しましてご理解ご協力をお願いすると共に、ご家族皆様方のご健勝ご多幸をご祈念申し上げます。新年の挨拶といたします。

令和3年 元旦



新年知事あいさつ

栃木県知事 福田 富一



酪農とちぎ農業協同組合の組合員、役職員の皆様、あけましておめでとうございます。

私は、昨年の知事選挙におきまして、多くの県民の皆様から御支援をいただき、引き続き県政を担わせていただくこととなりました。県内各地で県民の皆様の切実な声やふるさと「とちぎ」に対する熱い思いをお伺いし、改めてこれからの県政を担う責任に身が引きしまる思いであります。今後とも、「県民中心」、「市町村重視」を基本にしつつ、「地域重視」の

視点やデジタル化の動きも取り入れながら、スピード感を持って県の課題に果敢に取り組んで参る決意であります。

さて、昨年、世界に拡大した新型コロナウイルス感染症は、あらゆる社会経済活動に大きな影響を及ぼしており、県民生活や地域経済は先の見えない不安と危機の中にあります。現下の感染状況や経済動向等を的確に見極めながら、県民の命と健康を守り、県民生活や地域経済への影響の最小化を図るため、必要な対策に万全を期して参ります。

また、令和元年東日本台風で受けた甚大な被害からの復旧・復興に着実に取り組むとともに、気候変動の影響により頻発・激甚化する自然災害に備え、災害対応力の更なる強化を図って参ります。

現在、県では、栃木県重点戦略「とちぎ元気発信プラン」に続き、令和3（2021）年度から5年間の県政の基本指針となる「とちぎ未来創造プラン（仮称）」の策定を進めております。プランに掲げる本県の目指す将来像「人が育ち、地域が活きる 未来に誇れる元気な「とちぎ」の実現に向け、「人材育成」、「産業成長」など5つの重点戦略により、とちぎの未来を担う人づくり、未来技術を活用した次世代産業の創出・育成、県民の健康づくり、防災・減災対策など、新しいとちぎのかたちを描き、次の世代につなげる取組を積極的に推進して参りたいと考えております。

農林業分野の重点戦略においては、「活力ある農林業実現プロジェクト」として、未来技術の導入により生産性の向上を図り、若者や女性等が担い手として活躍できる環境づくりを推進するとともに、収益性の高い経営体の育成や安定的な供給体制の構築等により、農林業の成長産業化を目指して参り

ます。特に、酪農においては、新規参入者の受入体制整備や遊休施設等を継承する仕組みづくり、酪農経営の法人化・協業化等の担い手対策を推進するとともに、ICTや高性能機械等の導入による生産性向上を推進し、生乳生産量全国第2位の本県酪農の持続的な発展を目指して参ります。

知事5期目の新たな年を迎えるに当たり、私自身がオールとちぎの先頭に立ち、栃木県の輝く未来の創生に向けて挑戦して参りますので、より一層の御理解と御支援をお願いいたします。

本年が酪農とちぎ農業協同組合の組合員、役職員の皆様にとって素晴らしい年となりますことをお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

令和3年 元旦



新年の挨拶

青年部部長 今

知成



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては健康やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。また、組合員、青年部員の皆様、組合役職員の皆様におかれましては青年部活動に対し格段のご協力とご指導を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年6月の青年部総会において青年部本部長に選出され、新体制が発足しました。青年部員の皆様には本部事業へのご協力を今後ともよろしくお願い致します。

昨年を振り返りますと、年始めから新型コロナウイルスのニュースが増え、4月には緊急事態宣言

があり、私たちの生活は「新しい生活様式」へガラリと変わり、青年部活動をはじめとした、たくさんの行事等が中止になりました。

しかしながら、11月にはマスクなどの感染予防対策を徹底し、塩谷支部と黒磯支部において搾乳体験を開催することができました。また各支部では、花の苗配布活動を協力して行う事ができました。

今年は青年部設立20周年の記念すべき年ではありますが、コロナウイルスの影響で落ち着かない状況が続くかと思われれます。温故知新という言葉があるように、私たちの父や母をはじめとした諸先輩方の歩んできた道を振り返り、探求することで、また新たな気づきを得る事が出来るような年にしていきたいと思えます。コロナウイルスに負けないよう、今年も力を合わせて頑張ってくださいませ！！

新年の挨拶

女性会会長 八木沢恵子



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、健康やかに新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。女性会会員の皆様、組合役職員の皆様には日頃より女性会活動に対しまして格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は新型コロナウイルスの影響により、各種イベント、研修会等が自粛や中止となり、気持ちもふさがちになることが多い一年となりました。今はまだ先が見えない状況ですが、いつまでもこの状況が続くわけではありません。こんな時だからこそ足元を見つめ

直し、基本の飼養管理の改善や牛舎の環境美化など今出来る事、今やるべき事を前向きに行っていきましょう。

女性会の活動においては、毎年行っている全体研修会の開催を見送り、オリジナルのエコバックを作成して会員の皆様に配布いたします。ぜひご活用ください。

今年は一年延期となったオリピック、パラリンピックが開催されます。目標に向かってあきらめず、努力し続けている選手の方々のように、私たち女性会もコロナに負けず、心をひとつにして積極的に活動していきたいと思えます。

本年も皆様のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。最後になりましたが、皆様の益々のご発展とご多幸をご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。



東西南北

那須高原支所

牧場満喫！小学生が搾乳体験

11月25日、那須塩原市青木の小針勤牧場(青年部黒磯支部員宅)で、地元の青木小学校3年生を牧場に招待して搾乳体験を実施しました。

この行事は、青年部黒磯支部青木地区と青木小学校が連携し、市の



青木小学校3年生の搾乳体験

基幹産業である酪農について、子供たちの理解を深める学びの場として毎年行われていきます。今年は15名の児童が来場してくれました。

最初に、搾乳前の腹ごしらえ、という事でバター

作り体験を行い、出来たバターをクラッカーに付けて美味しく味わって頂き、とても喜ばれました。

メインイベントの搾乳体験では、関東生乳販連所有の搾乳体験車で一人一人順番に搾って頂き、青年部員が丁寧に搾乳のお手伝いをしました。始めは上手く搾れない子ども、プロのアドバイスをよく聞いて上手に搾れるようになり、みんな笑顔で終える事ができました。体験後に、ミルカー搾乳の実演を見て頂き、子供たちは牛乳が沢山出る様子に目が釘付けでした。

この日はまだまだお楽しみが用意されており、牛に聴診器を当て



出来たてのバターで試食タイム！



皆で順番に搾乳体験

て生き物の温もりをより近くで感じてもらったほか、トラクターに乗車して場内をドライブするなど、充実した内容で体験を満喫して頂きました。

最後は、牧場主の小針さんを中心に質疑応答を行い、児童15人全員から質問を受け、一つ一つ丁寧に回答して頂きました。また、数ある酪農の魅力から一つ挙げて、「酪農は実はグローバル。海外にも酪農家は沢山いるし、機会があればそういった国々に赴き知り合いをつくることも出来る。」と、ご自身の経験から夢に溢れる魅力を語って頂けたことが印象的でした。

児童の皆さんには記念のお土産をお渡しして、元氣いっぱいのお礼の挨拶を頂き無事終了しました。

今年はコロナ禍のため実施するか学校側にも相談しましたが、今年も是非実施して頂きたいと、前向きに返答して頂いた小学校の先生方、ご多忙の中お集り頂いた青年部員の皆様のご協力の下、感染症対策を講じた中で実施することができました。今年も子供たちには楽しい思い出を作ってもらおう事が出来たと思います。また、今回の体験をきっかけに、酪農について理解を深め、国産牛乳・乳製品の消費拡大の一助になったことと思えます。誠にありがとうございました。

宇都宮支所

女性会3支部で鉢花配布

昨年を振り返りますと、コロナに始まりコロナで終わったような年ではありましたが、せめて年の瀬からお正月にかけては、華やかな気持ちになれるよう宇都宮支所管内の女性会(那須南支部・塩谷





シクラメンに輝かしい年になるよう
願いを込めて！

支部・宇河今市支部)で、真冬の鉢花の代表格であるシクラメンの配布を行いました。受け取った会員の皆様は喜ばれておりました。昨年に限っては、役員会や総会等も書面での議決となり、その後の食事会や研修会等も全て中止となりました。

県南支所

女性会2支部が鉢花配布

コロナ禍による各事業の中止等

に伴い、当支所管内の女性会2支部(芳賀支部及び河内南部・下都賀支部)では、11月26日にシクラメン2鉢を配布しました。当日は、女性会の支部役員を中心に配布協力を頂き、全会員にお届けしました。受け取った会員さんは、皆さん喜ばれていました。コロナで暗い話題が多いなか、“花”で癒され明るい気持ちになられたことと思います。



高山道子支部長
(女性会河内南部・下都賀支部)

今回、配布されたシクラメンは、とても縁起の良い花です。それは、次から次へと咲き続け、話題を提供してくれるので、家族の絆が深まる花とも言われているからです。

贈られた会員ご家族において

は、毎日が笑顔で生活され、益々酪農経営がご繁栄されることと願っております。



大瀧博子支部長 (女性会芳賀支部)

第2回青色申告学習会

本年度2回目の青色申告学習会が、11月27日に県南支所にて行われ、8名が受講されました。この学習会は、当支所管内の組合員を対象に毎年開催され、実際にパソコンを使用しながら、年度内に5回程度実施しています。講師には、組合員の根本壽一氏(ソリマチ農業ソフト認定アドバイザー)と、大阿久善之氏(青色申告指導員)が記帳指導及び、青色申告決算書の作成を指導しています。

現在、県南支所では常時10名前

後の酪農家が受講されています。学習会の良さは、指導者及び受講者全員が“酪農”という同じ職業であることから、疑問点に対する解決策等も明瞭に分かることだと思います。更に、皆で歓談しながらの色々な情報交換も、経営向上のヒントに繋がると推察致します。未受講の方も興味のある方は、ぜひ県南支所にご連絡下さい。なお、学習会においては、コロナ感染拡大防止のため、マスク着用をはじめ、換気や密にならないよう十分に注意しながら、開催しています。



青色申告学習会



部課だより

生乳受託課

令和2年11月度の組合生乳生産量は、1万8947t（前年比102.0%）となりました。各支所の受入乳量は、那須高原支所1万2591t（前年比103.4%）、宇都宮支所2312t（同100.5%）、県南支所4044t（同98.7%）となり、出荷者数は前年同月より15戸減の374戸（内、学校1）となりました。

11月度の組合平均乳質は、脂肪率3.89%（前年差+0.03%）、無脂固形分率8.89%（同+0.05%）と乳成分は上がり、体細胞数についても19.39万と前年より1.79万低下し改善されている状況です。

関東生乳販連の11月の総受託乳量は8万1707t（前年比99.7%）と41ヶ月連続し前年を下回る状況となりました。用途別販売数量を見ると、飲用牛乳向けは家庭内消費が伸びている分、前年をわずかながら上回っている状況です。

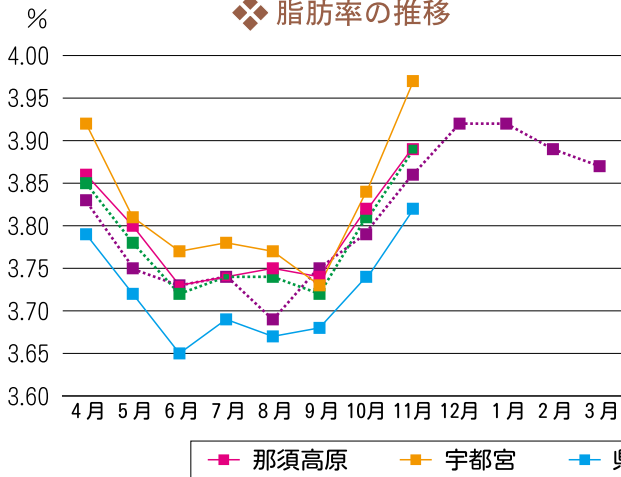
令和2年度 関東生乳販連用途別販売数量 (単位: kg・%)

用途	11月期実績	前年同期実績	前年比	11月末実績(累計)	前年同期実績	前年比
飲用牛乳向け	64,779,630	64,608,512	100.3	520,966,689	531,136,094	98.1
(うち学校を除く飲用)	53,115,963	52,793,803	100.6	456,171,524	454,520,956	100.4
(うち学校向け)	11,663,667	11,814,709	98.7	64,795,165	76,615,138	84.6
はっ酵乳向け	12,167,400	12,293,057	99.0	101,478,033	101,583,598	99.9
脱粉・バター等向け	3,574,255	3,736,674	95.7	45,562,429	39,969,703	114.0
(うち委託加工向け)	0	0	-	0	0	-
生クリーム等向け	1,119,487	1,204,071	93.0	8,982,527	9,821,103	91.5
チーズ向け	66,993	71,923	93.1	521,238	531,877	98.0
全乳哺育向け	0	0	-	0	0	-
総受託乳量	81,707,765	81,914,237	99.7	677,510,916	683,042,375	99.2
脱粉・バター等向け比率	4.37	4.56	-	6.72	5.85	-

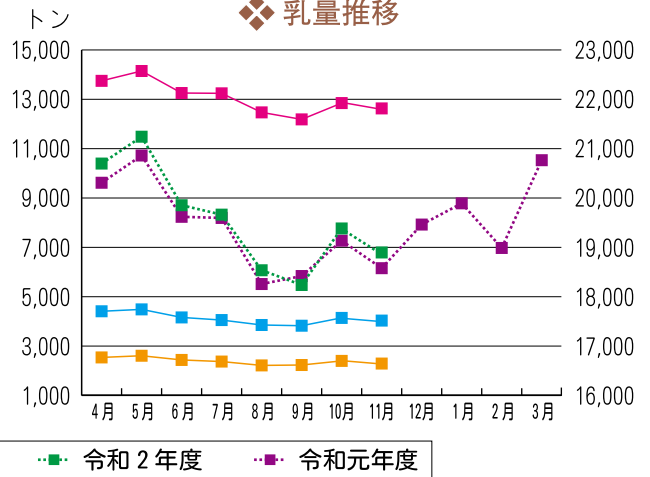
全国の生産量は101.7%と13ヶ月連続で前年を上回りました。北海道が前年比102.4%と21ヶ月連続で上回り、都府県も100.7%と2ヶ月連続で前年を上回りました。

なお、令和2年11月度の生産量・乳質、及び関東生乳販連の用途別販売数量は別表の通りです。

◆ 脂肪率の推移

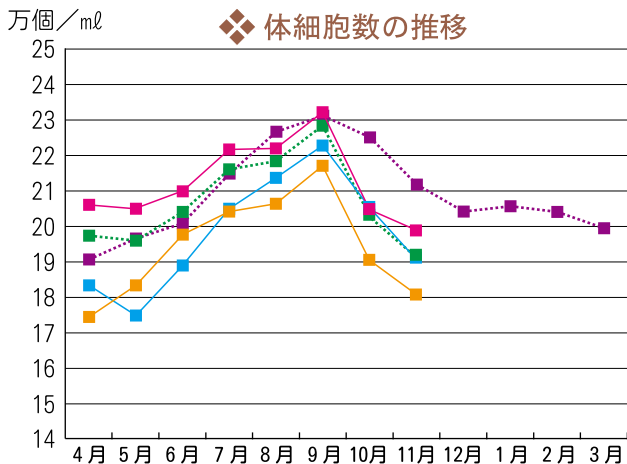


◆ 乳量推移

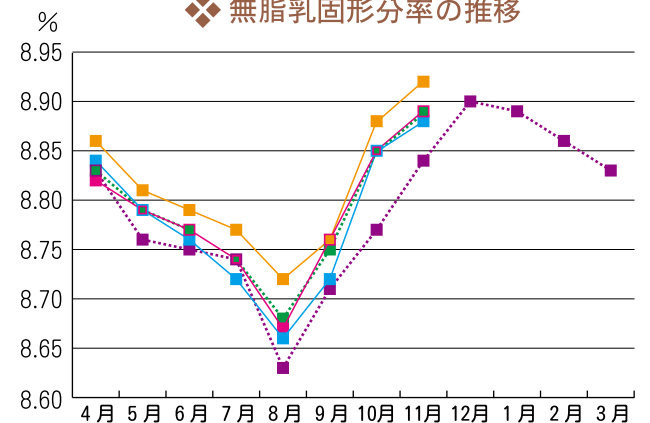


◆ 那須高原 ◆ 宇都宮 ◆ 県南 ◆ 令和2年度 ◆ 令和元年度

◆ 体細胞数の推移



◆ 無脂乳固形分率の推移



業務部

乳牛展示販売会開催される

昨年の10月29日、12月3日に、毎年恒例となっております酪農とちぎ乳牛展示販売会が盛大に開催されました。本年も組合員の皆様が愛情たっぷり育てた自慢の初妊牛が、10月の第一回には10頭、12月の第二回には28頭出品され、販売会々場は購買希望者・当日飛び入り参加者・出品者で大賑わいとなりました。

出品牛の確認後、一頭ずつ希望牛の挙手制にて販売を進めた結果、全出品牛全38頭めでたく完売となりました。中には一頭の牛に複数の希望者が殺到し、抽選くじで当りを引くとワァッと歓声があがるような盛り上がりとなりました。当日の結果は表の通りとなります。組合では今後も地域の生産基盤維持に向けた取組の



一つとして、乳牛展示販売会を続けていきたいと考えております。購入希望・販売希望どちらの方も大歓迎でございますので、これまた乳牛展示販売会にご縁のなかった組合員の皆様におかれましても、是非ご検討いただきまますよう、よろしくお願ひします。

結果表

(円・税込)

	出場頭数	成立頭数	最高額	最低額	平均価格
第1回 (10/29開催)	10	10	720,000	660,000	687,000
第2回 (12/3開催)	28	28	720,000	580,000	651,000

理事会だより

11月度理事会 (11月30日)

報告事項

- (一) 業務経過報告について
- (二) 組合資金貸付について
- (三) 組合プール乳価について
- (四) 関東生乳販連情報について

協議事項

- (一) 10月度事業実績について
- (二) 乳質保全全規程(不合格乳格差)の改定について
- (三) 令和2年度配合飼料特別奨励措置について
- (四) 令和2年度組合購買利用推進女性研修会の中止と代替案について
- (五) 令和2年度酪農生産基盤強化対策について
- (六) 年末手当の支給について

お知らせ

《組合員加入のご案内》

酪農とちぎは、組合員の皆様の方と出資金により運営されております。一口一〇〇〇円の出資から加入可能です。酪農に従事されているご家族の方等の加入を是非ご検討ください。皆様のご加入をお待ち申し上げます。

11月度 ホクレン初妊牛市場成績 (単位:千円(税込))

市場名	開催日	出場頭数	成立頭数	取引率	平均価格	(そのうちET牛)		
						出場頭数	成立頭数	平均価格
十勝	11月5日	589	481	81.7%	783	72	70	939
十勝	11月12日	372	348	93.5%	668	7	7	665
北見	11月18日	402	380	94.5%	729	11	10	776
根室	11月19日	428	401	93.7%	732	23	21	957
釧路	11月20日	353	322	91.2%	687	11	10	929
十勝	11月26日	761	636	83.6%	745	85	74	848
合計		2,905	2,568	88.4%	724	209	192	852
前月		2,642	2,435	92.2%	740	220	207	882
前年同月		2,977	2,353	79.0%	711	230	199	835

初妊牛の今後の動向は3~4月分娩が中心となります。10月が価格が強含みで推移したのも影響して、11月の初妊牛相場はほぼ横ばいとなりました。通常12月に向けて上場頭数は増加し価格は軟調傾向となり、その後春産み需要によって価格は強含みで推移する傾向が多く、道内外の需要が活発であることから、今後やや強含みで推移するものと思われます。導入を希望される方は腹条件、分娩月をご検討の上でのお申し込みをよろしくお願ひ申し上げます。

11月度 県内家畜市場成績 (単位:円(税込))

市場名	種別	出場頭数	成立頭数	平均体重	最高	最低	平均	前回比
那須(11/30)	ホルズ雄	109	108	64	173,800	2,200	107,362	15,411
	F1雄	121	121	63	300,300	45,100	175,873	45,182
	F1雌	167	167	66	276,100	39,600	194,634	26,965

今回の初生牛相場は前回から比較し、全ての種において強含みで推移しています。F1雄は前号で報告した平均価格152千円から上昇に転じ、この1ヶ月間で約4万円の上昇となりました。その後直前に開催された市場では210千円と、順調に上昇傾向を取っています。例年明けから1~2ヶ月価格が軟調傾向となる事が多いため、全体としては横ばい~やや弱含みで推移するものと思われます。